

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
4月	握手 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。((1)イ) →時間・場所など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句や、登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。 【態】粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。	1学期 【知・技】 ・1学期末考査 ・漢字テスト ・小テスト 【思・判・表】 ・1学期末考査 ・作文 ・プリント ・発表 【態】 ・ノート 話し合い活動 ・プリント ・授業への取り組み
4月	【聞く】評価しながら聞く ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏付けなどに注意して聞いている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →自分の意見と根拠を明確にし、相手の立場から予想される反論についても考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →立場ごとの主張と根拠、共通点と相違点を整理してメモを取り、根拠の適切さや自分の考えとの違い、取り入れたい表現などを伝え合っている。 【態】聞き取った内容や表現のしかたを進んで評価し、今までの学習を生かしてメモしようとしている。	
5月	学びて時に之を習ふ ——「論語」から	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア)	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	→教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →孔子の人間の生き方に関する考えを、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。 【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。	
5月	文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する ◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	【知・技】文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ) →随筆、物語、報道文など、さまざまな種類の文章があることを理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →修学旅行で心に残った出来事から題材を選び、その題材に関する情報や図表、写真を集め、出典を明らかにして記事の中で活用している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →担当した記事の内容が効果的に伝わる文章の種類を選択し、その種類に合わせた文章の構成や表現を工夫している。 【態】進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し文章にまとめようとしている。	
5月	漢字 1 熟語の読み方 漢字に親しもう 1 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	

3年 4-7月

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
5月	作られた「物語」を超えて ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、それらが文章の中で無理なく結び付いているかを確かめながら、自分の考えをまとめている。 【態】進んで文章の構成や論理の展開のしかたについて評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。	
6月	思考のレッスン 具体化・抽象化 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、抽象と具体の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして課題に取り組もうとしている。	
6月	説得力のある構成を考えよう スピーチで社会に思いを届ける 資料 リオの伝説のスピーチ ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →話す目的や相手を明確にし、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を選んでいる。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとしている。	
6月	漢字に親しもう2 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
6月	文法への扉1 すいかは幾つ必要？ ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(2年知・技(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際のポイントになることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。	

3年 4-7月

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
6月	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて議論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み、書き手の思惑や意図について考えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →読み手に必要な情報を過不足なく伝えているか、読み手の状況に合わせた言葉や表現を使っているか、不親切で誤解を招く表現になっていないかなどの点に着目して文章を読み、課題に取り組んでいる。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、着眼的を参考に情報の客観性や信頼性を確認しながら表にまとめている。 【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて進んで評価し、学習課題に沿って報道の文章を比較し、考えをまとめようとしている。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
7月	俳句の可能性 俳句を味わう 【書く】俳句を作って楽しもう ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 ・文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ) →俳句の形式とその特徴について理解し、俳句を創作している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、評価している。 ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →伝えたいことが効果的に伝わる構成(語順)を考えて、俳句を創作している。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 【態】進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。	2学期 【知・技】 ・中間・期末考査 ・漢字テスト ・小テスト 【思・判・表】 ・中間・期末考査 ・作文 ・プリント ・発表 【態】 ・ノート 話し合い活動 ・プリント ・授業への取り組み
7月	言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目ざして ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。(知・技(3)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ) →古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。 【態】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、試行錯誤しながら相手や場面によって言葉を選んで話そうとしている。	
7月	言葉1 和語・漢語・外来語 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けられている。 【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。	

3年 4－7月

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
7月	挨拶 ——原爆の写真によせて ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対して自分の考えをまとめている。 【態】詩の構成や表現のしかたについて積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
9月	故郷 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考えている「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 【態】粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。	
9月	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →話し手や聞き手が、対談の中で、適切な言葉遣いをしている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 【態】粘り強く話の展開を予測しながら聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとしている。	
9月	[推敲]論理の展開を整える ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →「具体と抽象」、「事実と意見」、「意見と根拠」について既習した内容を振り返りながら課題に取り組んでいる。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ) →課題に沿って文章を推敲し、論理の展開を整えている。 【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確かめ、情報と情報との関係の知識を生かして推敲しようとしている。	
9月	言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語を調べたりしている。 【態】積極的に慣用句やことわざ、故事成語を理解し、今までの学習を生かして短文を作ったり調べたりしようとしている。	
10月	漢字2 漢字の造語力 漢字に親しもう3 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
10月	人工知能との未来 人間と人工知能と創造性 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる(知・技(2)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 →自分の知識や経験と比べ、筆者の意見や根拠に納得できるかどうか検討しようとしている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →二つの文章を比較して共通点や相違点を表にまとめ、それを基に、話し合っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の立場を明確にし、根拠となる事実を引用するなどして、自分の意見を書いている。 【態】積極的に二つの文章を批判的に読	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
		み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。	
10月	多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →具体的な題材を基に、その価値についてまとめている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →観点を決めて問いと考えを書き出し、表にまとめるなどして分析している。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の意見を支える根拠となる資料を引用するなどして構成を考え、批評文を書いている。 【態】粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。	
10月	漢字に親しもう4 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
10月	【議論】話し合いを効果的に進める ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →全体に関わる大きな論点から、具体的な論点へと話し合いを進める方法を考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →話し合いの目的や進み具合など展望をもって効果的に話し合う工夫を考えている。 【態】積極的に進行のしかたを工夫し、学習したことを生かして効果的な話し合いについて考えようとしている。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
11月	合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →複数の発言の共通点を結び付けて、一つの提案にまとめている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →提案を分類・整理し、観点を決めて検討したり、互いの意見の長所を生かしたりして話し合っている。 【態】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。	
11月	音読を楽しもう 初恋 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き、語彙を豊かにしている。(1)イ) →言葉の響きやリズムを味わいながら朗読している。 【思・判・表】「読むこと」において、詩の構成や展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →文語定型詩の構成や場面の展開に注意して、表現された情景や心情を想像している。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読したり自分の考えを述べたりしようとしている。	
11月	和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →「和歌の世界」を読んだり、「仮名序」を朗読して比喩的な効果を確認したりしながら、和歌に対する古人の思いを捉えようとしている。 【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。	
11月	君待つと ——万葉・古今・新古今 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして、それぞれの作者の心情や情景を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →気に入った言葉や表現の効果などに気づき、引用している。 【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価して	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
		いる。(C(1)ウ) →心情や情景、和歌の表現方法などについて自分の考えをもっている。 【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。	
11月	夏草 ——「おくのほそ道」から 【書く】古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら朗読している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 →古典の言葉を引用して鑑賞文やメッセージを書いている。(3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →芭蕉の「旅」についての考えを読み取り、現代の「旅」がもつ意味と比較している。 →芭蕉が見たものや感じたことを想像している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。 【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。	
12月	古典名句・名言集 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →作者や作品の時代背景を知り、古典の名句・名言を朗読している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →気に入った名句や名言をノートに書いたり、それについて自分の考えを書いたりしている。 【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今まで	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
		の学習を生かして朗読したり書き出したりしようとしている。	
12月	誰かの代わりに ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説の文章を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読んでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章を批判的に読み、友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。	
12月	情報を読み取って文章を書こう グラフを基に小論文を書く ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →具体的な情報を基に、着眼点を決めて分析し、自分の考えをまとめている。 【思・判・表】「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →資料から読み取ったことと考えとの関連などについて、改善点を助言し合って推敲している。 【態】論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえて粘り強く推敲し、学習の見通しをもって小論文を書こうとしている。	
12月	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう5 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
		る。	
12月	文法への扉 2 「ない」の違いがわからない？ ◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解することができる。(知・技1年(1)エ, 2年(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解している。(1年(1)エ, 2年(1)オ) →「ない」の違いについて品詞や働きの違いを文章の中で理解している。 【態】単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて進んで理解し、これまでの学習を生かして課題に取り組もうとしている。	
12月	本は世界への扉 エルサルバドルの少女 ヘスース 紛争地の看護師 読書案内 本の世界を広げよう ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★二つのノンフィクションを比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →二つのノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりする。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、「私のおすすめ」として紹介したりしている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとしている。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
1月	温かいスープ ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の生き方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何か自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。	3学期 【知・技】 ・学年末考査 ・漢字テスト ・小テスト 【思・判・表】 ・学年末考査 ・作文 ・プリント ・発表 【態】 ・ノート 話し合い活動 ・プリント ・授業への取り組み
1月	わたしを束ねないで ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →言葉の使われ方や表現の特色に気をつけながら詩を朗読している。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会状況や人間の生き方について考えている。 【態】詩を読んで進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。	
2月	三年間の歩みを振り返ろう ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。((1)イ) →目的や相手を意識して言葉を選び、冊子をまとめようとしている。 ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ) →相手や場を意識しながら適切な言葉を選び、自分の考えを伝えていく。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →相手を意識して敬語を適切に使い、自分の考えがわかりやすく伝わるように構成を考えて発表している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の考えや思いがわかりやすく伝わるように構成や内容を考えて冊子を作っている。 【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。	
2月	漢字に親しもう6 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(知・技(1)ア) →音訓や部首などに気をつけて、これまで学習した漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
3月	学習を振り返ろう ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え	【知・技】 ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →相手や場を意識して敬語を使ってスピーチしたり、説明文を書いたりしている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →目的に応じて情報を収集・整理して相手にわかるように説明している。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ) →昔の時間の表し方や地名などを調べ、現代と比較したり、現代に受け継がれたりしていることを理解している。 ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	→アイヌ民族における地名に関する文章を読み、読書によって世界が広がることを理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章に表れているものの見方、考え方と自分の考えを比較して、人間や社会について自分の考えを書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように表現のしかたを工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分の考えがわかりやすく伝わるように聞き手の反応を確かめながら、問いかけたりわかりやすく言い換えたりしている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →本文から根拠となる部分を挙げて、客観的に自分の考えを書いている。 【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。	

等により評価を行う